



2025年1月28日

各 位

会 社 名 株式会社 GENDA
代 表 者 名 代表取締役社長 申 真衣
(コード番号：9166 東証グロース市場)
問 合 せ 先 取締役 CFO 渡邊 太樹
(TEL 03-6281-4781)

会社分割（吸収分割）による株式会社アトムの一部事業の承継に関するお知らせ

株式会社 GENDA（本社：東京都港区、代表取締役会長：片岡 尚、代表取締役社長：申 真衣）及びグループ会社（以下、「当社グループ」）は、株式会社アトム（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：田中 公博、以下「アトム」）から、アトムを分割会社、株式会社シン・コーポレーション（本社：東京都港区、代表取締役社長：川口 範、以下「シン・コーポレーション」）を承継会社とする会社分割（吸収分割）の方法により、アトムが運営するカラオケ施設運営事業を事業承継すること（以下「本吸収分割」）について、本日開催の取締役会において決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本吸収分割は、2025年2月下旬開催予定の承継会社の臨時株主総会において関連議案が承認可決されることを条件として実行されます。なお、分割会社に於いては、会社法第784条第2項に規定する簡易吸収分割に該当するため、株主総会の承認を得ることなく行います。

本件については、株式会社東京証券取引所が定める「子会社等の合併等の組織再編行為」にかかる適時開示軽微基準の範囲内であり、任意で開示するものであることから、一部事項について記載を省略しております。

記

1. 本吸収分割の目的

当社グループは、「世界中の人々の人生をより楽しく」を Aspiration（アスピレーション＝大志）に掲げ、その実現のためグローバルにエンターテインメントのネットワークを構築し、世の中に流通する「楽しさの総量」を増やすことを目指しております。M&Aによって当社ならではのエンタメ経済圏を構築する過程において、アミューズメント施設のロールアップ M&A を戦略の一

丁目一番地としながら、アミューズメント施設運営とシナジー効果の期待できるエンターテイメント企業及び事業等の M&A も積極的に実施し、当社グループ内の企業間で相互に事業拡大及び利益貢献する構造を構築しております。

当社グループはカラオケ施設運営事業において、お客様に長く愛されるカラオケ施設運営を目指し、高いクオリティーとサービスの行き届いた店舗運営に取り組んでおります。また、当社グループはさらに多くのお客様にエンターテイメント体験をお届けすることを目指し、新規出店や M&A による店舗網の拡大を推進しております。（当社グループが運営するカラオケ施設数は 2024 年 12 月末時点で 366 店舗）

アトムは、東北・北関東・東海・北陸地区にて「カラオケ時遊館」を展開しております。本吸収分割にて、当社グループはアトムのカラオケ施設運営事業（カラオケ施設 23 店舗）を譲受いたします。

譲受対象店舗が当社グループに参画することにより、当社グループが展開中の店舗との人的資源や DX にかかる知見の共有、並びに消耗品等の共同購買による店舗運営効率の向上が期待されます。さらに、当社グループの「エンタメ・プラットフォーム事業」の中核を担うアミューズメントでの取引網を活用した IP コラボの実施や、フード&ビバレッジにて展開している飲食物の提供など、コスト削減と売上向上の両面から譲受対象店舗の利益の伸長が期待できます。

譲受対象店舗をご利用いただくすべてのお客様に、より楽しいエンターテイメント体験をお届けできるよう、今後とも魅力的な施設づくりに邁進してまいります。

2. 本吸収分割の要旨

(1) 本吸収分割の日程

吸収分割契約の承認に係る取締役会決議日 (分割会社及び承継会社)	2025 年 1 月 28 日
吸収分割契約の締結日	2025 年 1 月 28 日
吸収分割の承認に係る株主総会決議日 (承継会社)	2025 年 2 月下旬 (予定)
吸収分割実行予定日 (効力発生日)	2025 年 3 月 1 日 (予定)

※本吸収分割は、分割会社においては、会社法第 784 条第 2 項に規定する簡易吸収分割に該当するため、株主総会の承認を得ることなく行います。

(2) 本吸収分割の方式

本吸収分割は、株式会社シン・コーポレーションを承継会社とし、株式会社アトムを分割会社とする吸収分割方式となります。

(3) 本吸収分割に係る割り当ての内容

吸収分割の分割対価として、株式会社シン・コーポレーションより株式会社アトムに対して20億円の金銭を交付する予定です。

(4) 本吸収分割に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

(5) 本吸収分割により増減する資本金

該当事項はありません。

(6) 承継する権利義務

承継会社は、承継する事業に関する資産、負債、契約その他の権利義務の一部を、吸収分割契約に定める範囲において承継いたします。

(7) 債務履行の見込み

本吸収分割において、分割会社及び承継会社が負担すべき債務について、履行の見込みには問題はないものと判断しております。

3. 本吸収分割に係る割り当ての根拠等

本吸収分割において承継会社が交付する金銭の算定につきましては、当事者間で協議のうえ、公正妥当な価格として合意しております。

4. 本吸収分割当事会社の概要

	分割会社	承継会社
(1) 名称	株式会社アトム	株式会社シン・コーポレーション
(2) 所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号	東京都港区東新橋一丁目9番1号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 田中 公博	代表取締役社長 川口 範
(4) 事業内容	飲食店チェーン及びFC事業の運営	カラオケ施設等アミューズメント事業
(5) 資本金	10,000万円	1,000万円
(6) 設立年月日	1972年1月14日	1989年6月14日
(7) 決算期	3月	1月(2025年1月期以降)
(8) 大株主及び持株比率	(2024年9月30日現在) 株式会社コロワイド 41.19%	株式会社 GENDA : 100%

	SMBC日興証券株式会社 0.37% STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済営業部) 0.29% 株式会社足利銀行 0.26% THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済営業部) 0.21% SIX SIS FOR SWISS NATIONAL BANK (常任代理人株式会社三菱UFJ銀行決済事業部) 0.12% 井上 ヒロ子 0.11% STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済営業部) 0.11% J P MORGAN CHASE BANK 385794 (常任代理人株式会社みずほ銀行決済営業部) 0.11% 株式会社大光 0.09%	
(9) 発行済株式数	193,559,297 株	7,329,000 株 (内 自己株式 828,000 株)
(10) 当事会社間の関係		
資本関係	該当なし	
人的関係	該当なし	
取引関係	2024年9月にカラオケ施設1店舗の店舗資産等の固定資産等をシン・コーポレーションがアトムから譲受しております。	
関連当事者への該当状況	該当なし	

5. 承継する事業の内容

(1) 承継する事業の内容

カラオケ施設運営事業 (カラオケ施設 23 店舗)

(2) 承継する部門の経営成績

項目	カラオケ施設運営事業 (2024年3月期)
売上高	1,535 百万円
営業利益	187 百万円

(3) 承継する資産、負債の項目及び帳簿価格（予定）

承継事業の資産の内容は、対象事業に属する固定資産及び流動資産のうち双方で合意したものととなります。

資産		負債	
項目	帳簿価格	項目	帳簿価格
流動資産	67 百万円	流動負債	5 百万円
固定資産	543 百万円	固定負債	199 百万円
合計	611 百万円	合計	204 百万円

(注) 上記金額は 2024 年 9 月 30 日現在の貸借対照表を基準として算出しているため、実際に承継される金額は、上記金額に効力発生日までの増減を加除した金額となります。

6. 会計処理の概要

本吸収分割は企業結合会計基準上の「取得」に該当する見込みです。この処理に伴う取得原価の配分、及びのれんの金額は現在精査中です。

7. 本吸収分割後の状況

承継会社の会社商号、本店所在地、代表者氏名、事業内容、決算期は、上記「4. 本吸収分割当事会社の概要」に記載の通りとし、吸収分割後の変更は現時点において予定されておりません。なお、純資産の額、総資産の額は未定となります。

8. 今後の見通し

本件に伴う当社の 2025 年 1 月期連結業績及び財務状況に与える影響につきましては、軽微であると見込んでおりますが、事業の大幅な状況変化により財務的影響が生じる場合には、明らかになった時点で速やかに開示いたします。

以 上

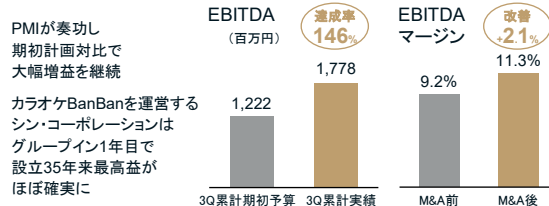
(株)シン・コーポレーションが、(株)アトムからカラオケ施設運営事業を会社分割(吸収分割)により事業承継

「カラオケ時遊館」23店舗を譲受し、好調なカラオケ事業へ拍車

売上面では、ゲームセンターとの複合店開発 / 出店 / IPコラボや近隣店舗との相互送客、GENDA IDによる顧客を囲い込み、F&B事業の飲食物の提供
コスト面では、GENDA一体での耗品等の共同購買など、ロールアップM&Aの妙味であるコスト効率化や、GENDAのグループファイナンスの恩恵も享受



■ 今年度から加わったカラオケ事業は、当初想定対比で大きく成長



■ 実は、GENDAのグループ内シナジーの多くにカラオケが関係



■ バリュエーションについて

ゲームセンターのEBITDA to FCFは約50%。対して、ゲームセンター対比で機械投資等のメンテナンスCAPEXが少ないカラオケは同約70%

従って、ゲームセンターとカラオケのM&Aを比較すると、仮に**同じEV / EBITDA倍率の場合**は、**ゲームセンターよりカラオケの方が投資回収が早い**のが特徴

今回はEV / EBITDA 7x台(直近実績値)での取得だが、上記EBITDA to FCFに鑑みると、**ゲームセンターでのEV / EBITDA 5x台でのM&Aと同じ投資回収期間**

更上、上記は「**同事業23店舗単体**」の「**前期実績値**」だが、「**連結約390店舗**」+「**グループシナジー発現**」+「**客数回復基調**」の「**来期以降の業績**」で回収を図るため、回収期間は早期化する見込み

注: 上記の「EBITDA to FCF」はEBITDAとFCFの割合(FCF ÷ EBITDA)を示しています。その背景として、実際の投資回収の原資はEBITDAではなく、そこから税金やメンテナンスCapex(維持更新投資)を控除したFCFとなるため、M&Aの成否の判断に投資回収を据える当社として重要な投資判断基準としております。一方で、FCFは単年のCapex額で大きく変動する為、簡易的にEV / EBITDA倍率を参考指標とするのが一般的です。